

ストウントレン州タラバリバ郡オースバイ村 オンロン・モロコット船着場完成式典の開催

2月1日（水）、ストウントレン州タラバリバ郡オースバイ村に於いて、我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じ建設された、オンロン・モロコット船着場の完成式典が開催されました。このコンクリート製の船着場は、オースバイ村を含む3村の住民がメコン河を安全に往来することができるよう、老朽化の進んだ木造の船着場の代替として建設されたものです。また、船着場を整備することによって、住民だけでなく観光客の往来も促進され、地域全体が活性化することが期待されます。

同式典には、大使館から黒木大使が、カンボジア側からトラム・イウテック公共事業運輸大臣、ローイ・ソパート・ストウントレン州知事、マン・ライホー・オースバイ村長に加え、約350名の地域住民の方々が出席しました。

式典では冒頭、ローイ・ソパート知事より、ストウントレン州の一般概況及び道路や橋梁の整備状況につき説明があった後、「州の住民を代表して、未だ津波をはじめとした災害の影響の残る中、日本からの支援に感謝する、住民が船着場を効果的・継続的に使用することを確信している」旨述べました。

続いて、黒木大使から、住民にとって重要な船着場の建設の実現に努めた知事や村長に感謝の意を表した上で、「老朽化した木造の船着場では人や物資が安全に渡河することができないため今回の支援を決定した、新たなコンクリート製の船着場は子ども達と学校を、病人と保健センターを、また、物資と市場を結びつけるものである、この船着場がオースバイ村の住民の社会経済開発を促進することを願っている」旨述べました。

黒木大使に続き挨拶を行ったトラム・イウテック大臣は、「日本は、津波や世界経済危機の影響が残っているにもかかわらず、カンボジア全土や近隣国・地域をつなぐインフラの整備を行ってくれていることに加え、今回の船着場建設のように草の根・人間の安全保障無償資金を活用し地方の村や村落に対しても個別に支援してくれている、地域住民や地方当局・関連機関には、この船着場を持続的に有益なものとし発展させていけるよう、オースバイ村や公共事業運輸省と協力して維持管理を行ってほしい」と述べ、我が国及び国民に対し、深い感謝の意が示されました。

最後に、トラム・イウテック大臣、ローイ・ソパート・ストウントレン州知事及び黒木大使がテープカットを行い、式典は終了しました。

(次項に式典時の写真を掲載)



式典の様子



テープカットを行う黒木大使



式典に参加した地域の方々



オンロン・モロコット船着場